

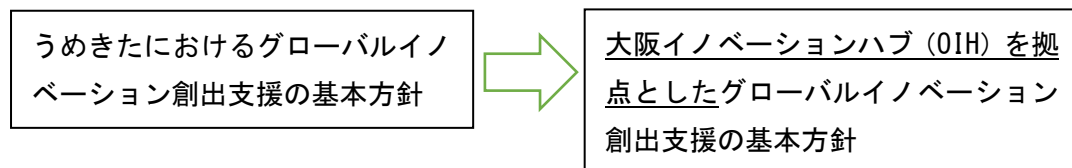
グローバルイノベーション創出支援の基本方針の見直し（骨子）

1 見直しの考え方

- ・平成 25 年の OIH 開設以降、イベントを通じてコミュニティ形成やネットワーク構築、情報発信等に取り組んだ結果、一定、イノベーションエコシステムの構築を進めることができた。
- ・これまでの取組み成果をふまえ、次の 3 年間の基本方針においては、グローバル展開が見込まれるプロジェクト創出に更に注力するとともに、既存企業や大学などの参画者を増やし、イノベーションエコシステムの底上げを図るため、目標の見直しを行う。
- ・また、数年先の大阪の成長も見据え、万博開催、うめきた 2 期開発に関する記載を追加する。

2 主な変更箇所

(1) タイトル



(2) 目標

平成 28～30 年度の取組みで OIH の認知度は大きく高まったため、「本拠地の趣旨に賛同し新たに参画または SNS 等でつながる人数」については、目標から削除し、より高い目標として③・④を新たに設定する。

①・②についても数値目標を高く設定している。

① ピッチイベント開催回数 165 回（3 年間）

有望な起業家の存在と、資金獲得や支援者との出会いにつなげるピッチイベントの開催頻度により、イノベーションエコシステムの発展段階を確認する

（現基本方針の目標：平成 30 年度のピッチイベント開催回数 50 回）

（参考実績：平成 28 年度：52 回、平成 29 年度：45 回、平成 30 年度上期：17 回）

② グローバル展開が見込まれるプロジェクトの創出・推進支援 180 件（3 年間）、OIH が支援するベンチャー企業等が投資を受けた累計額 30 億円（3 年間）

幅広く強固なネットワークを構築し、質の高い支援コミュニティによるエコシス

テムによって、プロジェクトの創出や推進に寄与する。

(現基本方針の目標：プロジェクト150件(3年間)、投資額：25億円(3年間))

(参考実績：平成28年度：56件、平成29年度：55件のプロジェクトを支援)

新

③ 既存企業や大学などが参画する OIH パートナー会員 100 者純増 (3 年間)

大阪・関西の既存企業、大学、官民のイノベーション支援拠点などの参画者を増やし、連携事業の充実やイノベーションエコシステムの底上げを図る

(参考実績：平成28年度：67者増、平成29年度：44者増、現時点で277者)

新

④ OIH が支援するベンチャー企業等が海外事務所を開設、または海外企業と提携した件数 3 件 (3 年間)

グローバル展開が見込まれるプロジェクトを海外市場へ送り出す支援を行う

(参考実績：平成28～30年度までの3年間で1社が海外事務所を開設)

(3) その他

・2025年の万博開催決定を受け、「いのち輝く未来社会」の実験場として、大阪に世界から技術、人材、資金が集積することへの期待を追記

・うめきた2期開発における「みどりとイノベーションの融合拠点」との連携、機能の役割分担を図り、新産業創出に向けて取り組んでいく旨を追記